

---

# 流れて落ちて

hisasi

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

流れて落ちて

### 【Nコード】

N3225I

### 【作者名】

hisasi

### 【あらすじ】

ちよっぴり大人の話。

切ない女性の心を書いてみました。

(前書き)

女の悲しい話なんで、悲しい女性は読まない方がいいと思います。

男は身勝手、だけどそんな男が好き・・・。  
複雑な女性心を表したお話です。

彼は一週間に一回だけ、平日に私の部屋に訪れては、二人のベットで私を抱く。そして、決まってこう言うのだ。

「愛しているのは、亮子、君だけだよ」

彼は奥さんと子供がいるのに、平気でそんな事を口にする。でも、私はそれでも嬉しい。

「愛してるのは亮子だけ」と言う十二文字の言葉だけでも、私は一週間を乗り切る事が出来るのだ。こんな関係をもう三年も続けている。

馬鹿な女だつて？ふん！そんなの自分でも分かっている。でも、好きになつたのだから仕方が無いのよ。実際、私は彼の事を大好きだし、今のままでも良いと思つてるの。

彼は会社の上司。年は十五も違うけど、私はすっかり彼に満足している。同じ年の男とはまるで違う、本物の男つて感じが彼にはあるの。好きになつたのは私だけど、誘つてきたのは向こう。要するに、お互い惹かれあつて結ばれたのだから、純粋な恋愛なのよ。本当は誰にも邪魔されたくない。けど、そうなる前に、彼には奥さんも一人娘もいるのは知つてた。知つてて好きになつたの。

私だつてモテない訳じゃないのよ。言い寄ってくる男はたくさんいるし、それは私に魅力があるからだけど、私が魅力に感じられないと言っただけの事。そう、あの人以外には。

彼と結ばれてからは、他の私を抱いた人はいない。それほど、私は彼の事が好き。知らない人は、恋人のいない私を不憫ふびんに思つて心配してくる。特に親は。もちろん内緒よ。

まあ、年を考えたならそう思うのは当然かもね。だつて、もうすぐ私も三十の仲間入り。この年になると回りは結婚していくけど、私はどうなるのかしらね。あの人に聞いて。

いいえ、分かっているのよ。彼は奥さんとは別れたりしないって。

それに、子供の事を一番に考えている事も。彼が言うのよ。

「俺が一番愛しているのは娘だ。その次に亮子、君だ。そうだなあ、次に奥さんかな」

彼は私を腕枕しながらそう言うてきた。そういう人。私は思い切りつねってやったけど、それで変わるのは皮膚の色くらいよ。ふん！

今日も彼は私を抱いた。

いつも通り、会社帰りに私の最寄り駅で待ち合わせ、通い慣れた美味しいイタリアンを一緒に食べて、ワインを一杯飲んでから、二人でほろ酔い気分のまま私の家に来る。そして、彼が買ってくれたセミダブルのベットに倒れこむ。服を着けていない時もあれば、来ている時もある。その日の気分。彼はとても元気なの。若い子みたくに激しいし、それでいてとても私の事をよく知っている。ベットの上の情事に勝ち負けがあるなら、毎回負けているのは私の方かも知れない。

そして、勝った彼はぐったり横たわっている私を残して、一人で着替えだす。お金を置いていく時もあれば、頬に軽い口付けだけの時もあるけど、私はそれに対してずっと何も言っでこなかった。そして、ドアの音がワンルームに響き渡った後、私はベットから起きだしてシャワーを浴びるのだ。

頭から熱いシャワーを浴びると、不意に太ももを伝うあの人の残り火。今日も膝まで流れ出て、そして、浴槽よくそうに落ちていく。

すると、私はどうしても我慢出来なくなるのだ。あの人はそれを必ず残していくのに、あの人の心はちっとも残っていない事に、どうしようもない悲しみがおきるの。シャワーを浴びなくて、ずっとそれで一日通した事もあるけど、それは余計悲しくなった。

だから、いつも流して落とす。

彼はそんな私の事を考えてくれているのかな？どう思う？デモね、私は彼の事が好きなの。もし、それが愛って言うのなら、そう言うてもいいと思うの、私は。でも、きつと違うのだからうけどね。きつと

でも、これだけは言える。私は彼を愛してる。だから、今日も、

流して、  
落とす。

終

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3225i/>

---

流れて落ちて

2011年1月20日02時40分発行